

証券取引所・証券会社

企業の資金調達

- 直接金融
 - 株式や債券を発行して資金を調達する
 - リスク負担は投資家
- 間接金融
 - 銀行等からお金を借りる
 - リスク負担は銀行が請け負う

直接金融の場～証券市場

- 発行市場
 - 長期にわたって安定した資金を調達するために、企業等が株式や債券を発行して資金調達する場
- 流通市場
 - 証券が投資家の間で適正な価格で売買することが可能、資金を有効に活用するための場

発行市場：株式の発行

- 新規公開
 - 新しく会社が株式を発行する
- 増資
 - 既存の会社が株式を発行する

IPO(新規公開) 1

- 企業面
 - メリット
 - 市場から広く資金調達することができると共に、知名度が上がり、社会的な信用を高められる。
 - デメリット
 - 管理コストの増加、株式買占めなどのM&Aの対象となる可能性の増加

IPO(新規公開) 2

- 投資家の面
 - メリット
 - 初値が大きく上がることが多い
 - 公募価格が割安なことが多い
 - 歴史の浅い会社が多く、今後の利益成長が期待できる
 - デメリット
 - 初値がついた後、株価が急激に大きく動くことが多い
 - 規模が小さく若い企業は妥当な株価の判断が難しい

IPOはなぜ儲かるか？

理由

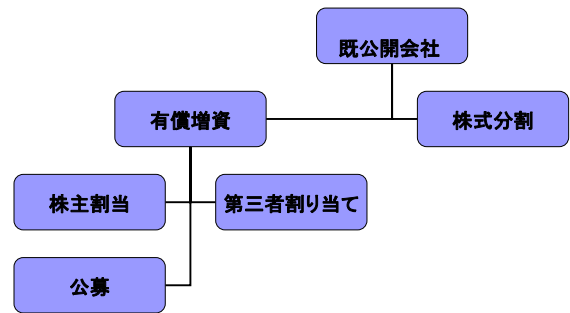
- 新規上場会社は、株価が安定的に高いことが理想のため、上場初日から新公募株主に損はさせたくない

↓
公募価格は妥当な株価から20%前後低めの価格に設定される事が多い

↓
初値が妥当な株価に近くなるのであれば公募組の初値売りは約5~20%の利益になる



増資



増資と株価の関係

増資後→株価は下落する

- * 長期的に見れば、増資により得た資金で設備投資や商品の開発等が進み株価上昇の可能性は大！



例1

- 発行済み株式数 1,000株 増資 500株
前年度利益 1,000,000円 株価 100円

増資する前の1株あたりの利益

$$1,000,000 \div 1,000 \text{株} = 1,000 \text{円/1株}$$

増資した後の1株あたりの利益

$$1,000,000 \div (1,000 + 500) \text{株} = 666 \text{円/1株}$$

増資後、一株当たり334円の利益が減少。

例2

- 発行済み株式数 1,000株 増資 500株
前年度利益 1,000,000円 株価 100円

増資する前のPER $100 \div 1,000 = 10\%$

増資した後のPER $100 \div 666 = 15\%$

5%の割高。こうなると、株価に対して利益が低いということになる。今まで保有していた株主も売り、買う人もあまりいなくなり、株価は下落する。

増資と株価の関係

- 発行株数が増えるため、1株当たり利益は下落

↓
増資後はPERが割高になる

↓
今まで保有していた株主も売り、買う人もあまり居なくなる

↓
株価は下落する

- * 長期的に見れば、増資により得た資金で設備投資や商品の開発等が進み株価上昇の可能性は大！



株式分割は株価にどう反応するか？

□ (ex)ライブドア

1株を100株に分割する
↓
理論上は株の価値も100分の1になる
↓
しかし、一時的な株式の品薄状態となり、投資家の買いが殺到
↓
株価上昇！（100分割後、株価は8.5倍に！）

* 5分割を超える株式分割を自粛するよう全上場企業に要請した

* 現在はペーパーレス化が進んでいるためこの方法では
株価を吊り上げることは難しい



流通市場

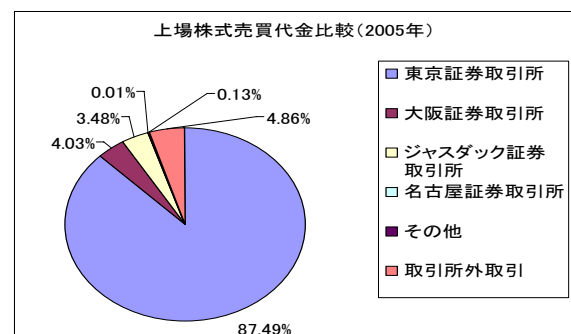
- 取引所市場
 - 証券取引所で行われる取引
- 店頭市場
 - 証券会社の店頭でおこなわれる取引

* 株式については9割以上が取引所取引

証券取引所

- 役割
 - 有価証券の売買等を行う有価証券市場を開設する法人
- 全国にある取引所
 - 東京証券取引所、大阪証券取引所、名古屋証券取引所、札幌証券取引所、福岡証券取引所、ジャスダック証券取引所

上場株式売買代金比較



上場とは？

- 上場とは、証券取引所で企業などが発行する証券を売買する資格を与えること
- 審査基準：株式数、株主数、利益の額など
- 上場のメリット
 - 会社の知名度、信用度が向上
 - 有能な人材確保
 - 資金調達がしやすくなることでの業務拡大

東京証券取引所

- 役割：公正な価格の形成とスムーズな流通
- 業務
 - 上場関連業務：上場会社へのサポート
 - 決済業務：代金の支払い、株券の引渡し
 - その他：制度作成や監視、現状の調査
- 収支：証券会社、上場会社から徴収
- 東証の株式市場：市場第一部、市場第二部、マザーズ

ジャスダック証券取引所

■ 特徴

- 中堅・中小企業の株式にも価格がつきやすい売買方式(マーケットメイク方式)
- 第1部・第2部上場基準と違い、上場株式数や設立後の経過年数などの規定がない

■ 上場企業

- ヤフー(現在は東証1部)・楽天・日本マクドナルド etc.

新興市場

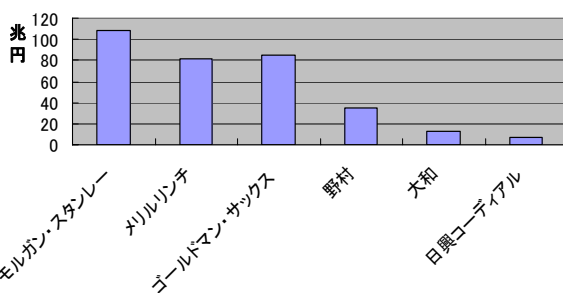
- 東京証券取引所- マザーズ
- 大阪証券取引所- ヘラクレス
- 名古屋証券取引所- セントレックス
- 福岡証券取引所- Qボード
- 札幌証券取引所- アンビシャス

外資系証券会社の特徴

- ①リテール部門がない
- ②儲からないビジネスには人を配さない
- ③人材の固定化しない
- ④解雇がある



証券会社の規模



証券会社の業務

- 委託売買業務(ブローカー業務)
- 募集・売り出し業務(ディストリビューター業務)
- 引き受け業務(アンダーライター業務)
- 自己売買業務(ディーラー業務)

委託売買業務(ブローカー)

- 他人の売買の仲介
 - 投資家から受けた株式などの売買注文を、流通市場に取り次ぐ
 - 委託手数料を得る

募集・売出し業務(ディストリビューター)

- 有価証券の売り出し
 - 既に発行された有価証券の売付けの申し込みや買付けの申し込みの勧誘
- 有価証券の募集
 - 新たに発行する有価証券の所得申し込みの勧誘
- 私募取り扱い
 - 機関投資家や少数の投資家が対象

引き受け業務(アンダーライター)

- 有価証券の引き受け
 - 増資などで新しく発行される株式、債券、転換社債などを発行企業から引き受ける
 - * ディストリビューターよりもリスクが高い
- 買取引き受け
- 残額引き受け

自己売買業務(ディーラー)

- 有価証券の売買
 - 証券会社自身が投資家となり、自ら株や債券の売買を行う
 - 先物取引
 - オプション取引

金融ビッグバン

- 銀行、証券、保険など金融業の相互参入
- 手数料自由化
- 投資信託の販売解禁
 - Free・・・市場原理が働く自由な市場
 - Fair・・・透明で信頼できる市場
 - Global・・・国際的で時代を先取りする市場

証券会社、どう儲ける??

手数料自由化
↓
手数料減少
↓
トレーディング
リスク大
↓
資産残高営業



生き残る証券会社

特色をもつところ

- ① 投資銀行業務が軌道に乗った会社
(失敗の可能性あり)
- ② 資産運用サービスを提供する会社

ローコストで良質なサービスを提供できる会社

特色ある証券会社

- 岡三証券(インド) 中国(本土、香港)
- 東海東京証券(欧州、米国、中国(本土、香港))
- ユナイテッドワールド証券:
香港市場に上場している中国株(全銘柄)
- 松井証券: インターネット株式取引

今後の証券会社

- オペレーションの信頼性の向上
- 投資家に対するチェック機能の発揮
(引き受け等の審査の強化)
- 市場プレイヤーとしての証券会社の自己規律

参考文献

- 『よくわかる証券業界』 2006 日本実業出版社 山崎元
- 『金融・証券がわかれば経済のしくみが見える!』 2005 株式会社ナツメ社 林雅巳
- 『証券外務員2級合格のためのバイブル』 2006 税務経理協会 嶋田浩至
- 東京証券取引所 <http://www.tse.or.jp/>
- 大阪証券取引所 <http://www.ose.or.jp/>
- JASDAQ証券取引所 <http://www.jasdaq.co.jp/>
- NIKKEI NET <http://www.nikkei.co.jp/>
- 証券会社各社ホームページ